

東京、2022年7月1日

プロヴァンス・アルプ・コートダジュール観光局 来日記者発表会 「観光資源の宝庫をラグビーワールドカップ観戦の拠点に」



左から：フレデリック・マゼンク（フランス観光開発機構在日代表）、エミリー・ボネル（マルセイユ観光局国際プロモーション担当）、大野均氏（ラグビー元日本代表 現東芝ブレイブルーパス東京）、ヤニック・ル・マガデュール（プロヴァンス・アルプ・コートダジュール地方観光局マーケティングディレクター）、カトリーヌ・アヌーユ（ニース観光局マーケティング・コミュニケーションディレクター）

2022年6月22日、フランス観光開発機構はプロヴァンス・アルプ・コートダジュール地方観光局と共同で記者発表会を開催し、2023年ラグビーワールドカップ フランス大会（RWC2023）の開催地となる当エリアの見どころについて発表いたしました。プロヴァンス・アルプ・コートダジュール地方内には、RWC2023の試合開催地（ホストシティ）としてニースとマルセイユの2つの地中海都市があり、ニースでは日本対イングランド戦が9月17日に、マルセイユでは、日本代表がプール戦を勝ち進んだ場合に準々決勝が10月14もしくは15日に行われることが決定しています。

RWC2023 観戦を想定した旅行ルート

今回の記者発表は、フランスからミッシェルを迎え対面形式で行うものとしては、新型コロナウイルスの到来以降2年4カ月ぶり初の開催。プロヴァンス・アルプ・コートダジュール地方観光局のマーケティング・ディレクター、ヤニック・ル・マガデュールが率いるミッシェルメンバーが、RWC2023での観戦旅行を想定した**域内の旅行ルート（ニース～アンティブ・ジュアン・レ・パン～トゥーロン～エクサン・プロヴァンス～リュベロン～マルセイユ）**を提案しました。

プレゼンテーションの冒頭、ル・マガデュールは、日本代表チームの試合日程と、試合開催都市（ニース、トゥーロン、ナント）に注目し、各試合都市へ簡単にアクセスでき、**観光資源が豊富であるプロヴァンス・アルプ・コートダジュールに旅の拠点を置くメリット**を強調しました。

旅の拠点はイタリアとの国境に近い地中海のリゾート都市ニース。ニース観光局マーケティング＆コミュニケーション・ディレクター カトリーヌ・アヌーユは、2021年にニースの街並みが「**リヴィエラの冬季保養都市**」として**世界遺産に登録**されたことに触れ、国際的な観光アクティビティがニースで始められたこと、そして現在も国外の旅行者にとっての人気のデスティネーションであり続けていることを説明。さらに、ニースの郷土料理について、オリーブオイルなど太陽の恵みを受けた食材をふんだんに使う特色があり、昔から地産地消が根付く土地柄であることにも触れました。

マルセイユ観光局国際プロモーション担当のエミリー・ボネルは、2013年にマルセイユが欧州文化首都に制定されて以来、ウォーターフロントに建設された **MuCEM(欧州地中海文化国立博物館)**をはじめとする現代建築が都市に新たな魅力を吹き込み、**トレンド発信地**になっていると説明し、建築好きであれば、世界遺産登録されているル・コルビュジエのユニテ・ダビタシオン（集合住宅）も見逃せないと加えました。さらに地元では、マルセイユ沖で発見された**コスケール海底洞窟のレプリカが見られる施設**が6月4日にオープンしており、新たなマルセイユ観光の目玉になると期待を寄せました。

プロヴァンスの内陸部にあり、ゴールド、ルシヨン、ルールマランなど「フランスの美しい村」に登録された個性豊かな村が多いリュベロンの観光局長のフランク・ドゥラエは、「**本物のプロヴァンスのライフスタイルが感じられる場所**、慌たらしい日常を忘れ、ゆったりのんびりするのに最高の場所」と自らの地域を紹介。

日本ラグビーのレジェンド、南フランスの印象を語る

記者発表の中では、6月初旬にRWC2023開催都市やエリアを視察した、元ラグビー日本代表選手で国際試合へ歴代最多98回の出場経験を持つ**大野均さん**が登場し、旅の印象を語りました。

「**南フランスの素晴らしい気候に触れ、フランスのイメージが明るくなった**」と語り始めた大野氏は、日本代表がイングランドと対戦する「スタッド・ド・ニース」について、「日本代表が南アフリカを破った、イングランド、ブライトンのスタジアムに雰囲気似ており、何かをやらしてくれる雰囲気がある」と日本代表の活躍に期待をにじませました。プロヴァンスで最もラグビーな盛んな都市トゥーロンを訪問した際には地元クラブのファンにいち早く囲まれ、「ファンがチームの一員であると感じられる」と街の印象を語りました。

記者発表中、大野氏との対談相手を務めたフランス観光開発機構 在日代表フレデリック・マゼンクは、氏について「フランス語で言う bon vivant（よく飲み、よく食べ、人生を謳歌する人）」と形容し、マルセイユの郷土料理であるブイヤベースや、地元で有名なリキュールのパステイスを楽しめたかと質問。「**料理はどれも素晴らしかった。とくにサービスも含めた素晴らしさで、どこの街でもホスピタリティの高さを感じた**」、「ワールドカップで再訪したい」と締めくくりました。

プレゼンテーションの内容はプレス資料（日本語版）をご参照ください。



ミッションを率いたプロヴァンス・アルプ・コートダジュール地方観光局のヤニック・ル・マガデュール



ラグビー元日本代表の大野均氏



プロヴァンス・アルプ・コートダジュールの旅を振り返る大野均氏



ヤニック・ル・マガデュール（プロヴァンス・アルプ・コートダジュール地方観光局マーケティングディレクター）



カトリーヌ・アヌーユ（ニース・コートダジュール観光局マーケティング & コミュニケーション・ディレクター）



エミリー・ボネル（マルセイユ観光局国際プロモーション担当）



フランク・ドゥラエ（リュベロン観光局局長）

- プレス資料「Rugby World Cup 2023 Let's Go ! #Visit South of France」:

<https://my.ebook5.net/atout-france/PACA-RWC2023/>

- 記者発表会時の登壇者画像: bit.ly/3yw1ppp

- 当リリースのお問合せ :

フランス観光開発機構 日本事務所:

Atout France au Japon

増田 真由美 Mayumi MASUDA : mayumi.masuda@atout-france.fr
jp.france.fr | jp.media.france.fr



プロヴァンス・アルプ・コートダジュール地方観光局 :

Comité Régional de Tourisme Provence-Alpes-Côte d'Azur

Rabiha Benaissa r.benaissa@provence-alpes-cotedazur.com

PR MEDIA

www.provence-alpes-cotedazur.com | [Media Space](#)

